

天遊 大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Autumn 2016 **Vol.39**

男女共同参画推進コラム
手をつないで Vol.14

新任副学長紹介
吉田 晴世 副学長

ラボ訪問

STUDENTS NOW!

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS



特集
1

トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム

特集
2

博士が導くスーパーサイエンス 高度理系教員養成プログラム

大教大
NAVI

天

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込ませると、動画が視聴できます。

詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。



国立大学法人
大阪教育大学

トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム

文部科学省が2014年からスタートした返済不要の奨学金制度「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」。
2020年までに約1万人の大学生・高校生を海外へ送り出すことを目標とした海外留学支援制度です。
支援企業・団体の寄付により留学奨学金を提供し、世界で活躍できる人材の育成を目指します。



将来の目標実現のために学生が自分で組み立てた留学計画に応募!

大教大 NAVI 天

インタビュー動画が見られます。

帰国トビタテ生の声

山本 絢子さん

幼稚園教員養成課程

トビタテ2期生(多様性人材コース)

留学先:
フィンランド/オーボ・アカデミー大学

Q1. 留学計画について教えてください。

小学校に入学する前の6歳児を対象にした就学前教育を訪問し、インタビュー調査を実施しました。フィンランドでの事例を参考に、日本での「幼小連携」問題の改善策を考察しました。

Q2. トビタテ制度を利用して良かったことは?

留学を成功させるには、留学前に自分のやりたいことを明確にしておくということが大切だと思います。トビタテは申請時にしっかりと計画を練る必要があり、さらに事前研修でフラッシュアップします。そういう過程があったからこそ、雨の日も雪の日も気温が-20度の時も、自分のやりたいことのために小学校に足を運べたと感じています。1年留学していれば、気持ちが緩む時期もきつとあると思います。でも、支援してもらってるんだから頑張らなと、と思うことで、良いプレッシャーにもなりました。トビタテの存在が留学中の私を支えてくれたことは間違いないと思います。

Q3. 留学を志す人へのメッセージ

留学生活は、たくさんの人、たくさんの文化、たくさんの価値観に出会える最高のものだと思います。そしてその出会いが自分を見つめ直す機会にもなると思いますので、迷っている人もぜひ挑戦してみてください!



山口 玲菜さん

教養学科健康生活科学専攻

トビタテ3期生(多様性人材コース)

留学先:
フランス/リヨン第三大学

Q1. 留学計画について教えてください。

大学でフランス語や文化を学びながら、フランスの進んだ町づくりを学ぶべく、西部の町でインタビュー調査を行いました。市民が積極的に参加できるように工夫されている同市の都市計画について、責任者の方に直接話しを聞き、日本人の町づくりに対する意識を変えるヒントを得ました。

Q2. トビタテ制度を利用して良かったことは?

トビタテは、語学力や成績は関係なく、熱意のある学生を受け入れてくれます。また、トビタテ生同士の交流が盛んで、他の奨学生から良い刺激を受けられます。SNSなどで留学前後も留学中も情報交換をしています。私がナントでインタビューした方は、他大学のトビタテ生から紹介してもらいました。

Q3. 留学を志す人へのメッセージ

海外に行った経験がなく、語学力に自信がないことで留学する決心がでない人がいたら、とりあえず挑戦してみてください。私はフランスが初めての海外で、英語もできず、フランス語は大学の第2言語レベルでしたが、このように留学することができました。苦労することもあります。留学して良かったと心から思っています。



グローバルに活躍する人材へ

ヘルスケアサポート

生活・学習相談

留学報告会の実施

事後研修

留学生 & 支援企業ネットワーク

留学経験を仲間と共に振り返り、自身の志やキャリア形成について考えます。

単位修得を前提とした留学だけでなく、インターンシップ・ボランティアなど多様な活動を支援。

留学中

ただいま留学中



竹内 彩華さん

大学院
特別支援教育専攻

トビタテ4期生
(多様性人材コース)

留学先:
フィリピン/
ミンダナオ国際大学ほか

フィリピンにおける特別支援教育の歴史と現状について学んでいます。同時に小学校でボランティアをしながら、障がいのある子どもが通常の学級で適切な教育を受ける「インクルーシブ教育」に焦点を当て、実態調査を行っています。



根来 佳祐さん

大学院
学校教育専攻

トビタテ4期生
(世界トップレベル
大学等コース)

留学先:
シンガポール/
国立教育学院

シンガポール唯一の教員養成機関において、算数・数学教育に関して、教育内容と教員養成制度の2つの観点から調査しています。また、小学校で放課後の学習支援に参加し、低学年に算数を教えたり、先生たちと両国の算数文化の違いについて意見交換を行ったりしています。



平山 奈実さん

小学校教員養成
5年課程

トビタテ4期生
(多様性人材コース)

留学先:
フィンランド/
イースタンフィンランド大学

理科や社会といった教科や異文化理解などのトピックを「外国語(英語)」を用いて学習するCLIL(内容言語統合型学習)を学んでいます。またCLILを実践している小学校を訪問し、表現力や思考力を身につけることのできる初等英語教育について調査研究しています。

男女共同
参画推進
コラム

手をつないで Vol.14

男女共同参画に携わることになって

—意識改革と共生社会の実現を目指して—

本年7月1日付の人事異動で人事課課長代理となりました。私の新しい職務として男女共同参画の推進があります。

大阪教育大学では、「男女共同参画推進指針」、「次世代育成推進支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画」及び今年の春からの「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」等により様々な施策を行っております。それらを今まで一職員としての意識で感じながら日々過ごしてきました。その中で常に感じるのは、自らの生活の中における意識改革です。個性を生かせる社会の実現のために、私たち一人ひとりが互いの個性を尊重して、助けあい支えあって日々の生活を営んでいくというごくごく身近な意識改革の積み重ねこそが、男女共同参

画の実現に向けた第一歩だと思っております。

私の身近にも、病気のために障がいをもつ体となり、日常生活を送る上で心身ともに乗り越えていく壁を常に抱えている方がいます。しかし、夫婦や家族、仲間とともに、足りないところを支えあって生きていけば、目の前にある壁も自然と低くなっていくものであることを強く感じます。

また昨今の就職活動の意識調査等でも、学生の就職活動中に女性が不利を受けたという調査結果が、まだ時折見受けられます。具体的には企業等の採用面接時に結婚や出産後の就業意向といった質問を受けたり、総合職よりも一般職を勧められたという話や、就活上でのハラスメント等です。これらは男女共同参画を妨げている例の一端ですが、より一層男女共同参画を推進するためには、先ほど述べた個々の身近な部分での意識改革が重要なのだと思います。

これから、日々の職務等を通して男女共同参画に対する学内の環境づくりに少しでもお役にたてるよう取り組んでまいります。

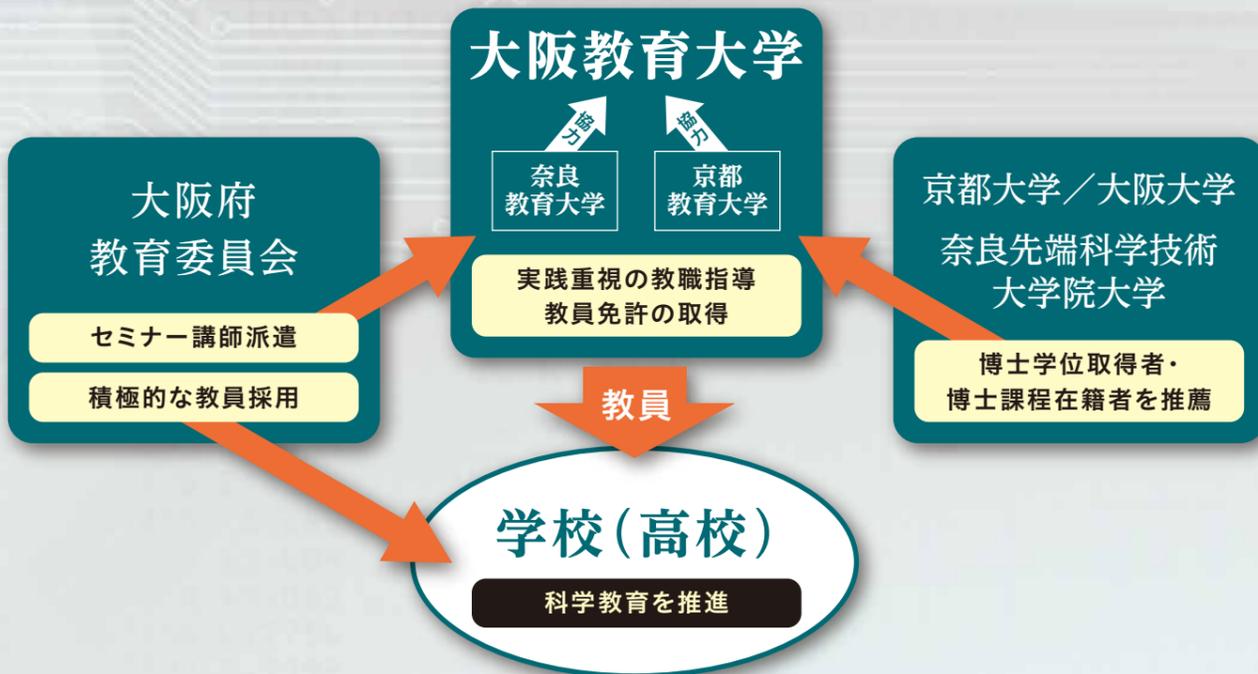
男女共同参画推進会議企画専門部会 事務担当
飯國 良充(総務部人事課課長代理)

博士が導く スーパーサイエンス 【高度理系教員養成プログラム】

ノーベル賞の相次ぐ受賞など、日本の科学技術が世界の注目を集めています。

そうした中、高校では、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)^{*}や科学オリンピックなど、高度な技術を支え、新たな科学を切り拓く人材を育てる様々な取り組みが展開されています。大阪教育大学は、高度な研究内容を指導する機会が増えた高校のニーズに応えるため、博士の学位を有し、高い研究能力を備えた教員を送り出す「高度理系教員養成プログラム」を実施しています。

※スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは
文部科学省が科学技術や理数教育を重点的に行う高校を指定する制度。
生徒による研究発表、大学や研究機関との連携、トップクラスの研究者や技術者等との交流などを通じて、論理的思考力、創造性、独創性を育てる。



このプログラムは、主に高等学校の教員として必要な実践的指導力を培い、教員採用試験を経て正規教員として活躍する人材の育成を目的としています。

受講生は大阪教育大学で学校経営、生徒指導、教科指導など

教職に必要な理論を学ぶとともに、学校現場での授業見学やSSHの研究支援、

大阪府教育委員会や協力大学の教員によるセミナーなどを通して、実践的指導力を身につけます。

プログラムを通じて教員免許の取得も可能で、学校教育で高度な研究指導のできる教員として、博士人材の新たな活躍の場となることが期待されます。



受講生

平成27年4月～
平成29年3月受講

ますだ たかゆき
増田 高行さん

大阪大学大学院
理学研究科数学専攻
博士後期課程3年

◆プログラムを受講した経緯は？

元々高校教員志望で、学部生の段階で教員免許は取っていたのですが、高校教員になるならきちんと数学を勉強しておいたほうが良いと周囲からの助言もあって、大学院に進みました。修士課程の段階でプログラムのことを噂程度に知り、博士課程に入って大学の掲示板で見て申し込みました。

◆教員免許をもっているながら受講した理由は？

最初にプログラムの説明会に行ったのですが、実のところSSHと言われてもピンと来なかったですし、教員免許もすでに持っていたので、自分にとってどんな利点があるのかよくわかりませんでした。しかし、教員になってから何かしらプラスアルファがあるのだらうと、曖昧なまま受講し

ました。実際に入ってみたら、理系教員としてやはりSSHのことは知っておいたほうが良いと感じたので、それが学べたのは良かったです。また、ぼくは数学ですが、他の理科目の人と話すことができ、いろいろなことを知ることができました。さらに、博士を出た教員はそうでない教員とは何が違うのか、考えるきっかけができました。

◆博士教員のメリットとは？

与えられた問題をやらせるだけでなく、自分で問題を構成して与えられるから、効果的な指導ができると思います。それから、ぼくはずっと、なぜ数学をするのかということを考えていて、それは研究をしていないとわからないことだと思います。それを自分の言葉で教えられるのが博士教員の強みです。

◆高校教員になったらどんなことがしたいですか？

今は、いわゆる学力レベルの高い学校をいろいろ見させてもらっていますが、勉強だけしかしていない子が多いので、もっと人間的なことを教えたいです。それから、なぜ勉強するのかわからずに勉強している子があまりに多いと感じているので、それをしっかりと伝えたい。

◆後に続く人にメッセージを。

高校の教員として大事なものは、教科の専門性と教職の専門性、その両方を備えていることだと思います。博士課程まで行く人は、教科の専門性は十分だと思いますが、教職の専門性がない。研究を教えるという部分だけでなく、教職の基礎的なことを学ぶのはとても重要なので、教員になるなら受講をおすすめします。



修了生

平成22年4月～
平成24年3月受講

かとう ともなり
加藤 智成さん

京都大学大学院理学研究科
物理学・宇宙物理学専攻
博士後期課程単位取得退学
大阪府立住吉高等学校教諭(物理)

◆プログラムを受講した経緯は？

大学院修了を前に、就職をどうするか迷っていました。そんなときに教授がこのプログラムを紹介してくれたのがきっかけです。以前から教えることは好きだったので教員の道も考えてはいたのですが、免許がなかったので決断できていませんでした。それがこのプログラムで免許が取れるということを知って、そのことも後押しになりました。

◆受講したなかで印象に残っていることは？

大教大附属高校天王寺校舎でSSHの手伝いをしていて、海外研修に同行したことが印象深いです。当時附属天王寺高はSSHを始めたばかりだったので、研修先のアメリカの高校はとてもハイレベルな研究をしていて本当にすごかったです。それでも生徒たちは物怖じせず、英

語でがんばってコミュニケーションをとっていて、たかましいなと思いました。

◆プログラムを通じて学んだことで、今に生きていることは？

附属高の先生の模擬授業を見学したり、受講生同士で授業計画を検討し合ったりしたことは今も覚えています。基本的なことをしっかり学べたのはよかったですね。ゼミでは、学力とは何かというテーマで議論したこともありました。そういうことを突き詰めて考えてみようというのは今でも時々思うところで、結論が出るものではないのですが、考えるきっかけをもらいました。また、住吉高校はSSH指定校で、わたしは現在その主担当をしていますが、附属天王寺高での経験は非常に参考になっています。

◆これからの目標は？

自分が専門とする物理の教育に関して、授業研究や、学会発表をしたいと思っています。物理を通じて生徒がどう学ぶか、何を学ばせるか、さらには教育とは何かといったことを、深く掘り下げて考えたいです。

◆後に続く人にメッセージを。

このプログラムの対象になる人は、基本的には研究の道に進みたいという人が多いのですが、選択肢の一つとして教育というのも面白いのではないかと思います。今後は博士教員のネットワークを作って、互いに刺激したり情報共有したりということができるようになりたいと考えているので、一緒にやっていきましょう。



新任副学長紹介
吉田 晴世
附属図書館長
に聞く!



【略歴】
2003年5月～ 教員養成課程英語教育講座
2012年4月～2016年3月 附属高等学校長
2016年4月～ 附属図書館長兼副学長

吉田晴世教授が最初に英語に興味を持ったのは学生時代でした。「当時の公立高校の英語教育は発音が無茶苦茶で、とにかく覚えなさい、というだけ。それが英語と思っていたから、大学1回生のときにフィリピンに行って驚きました。東南アジアですが英語が公用語で、『英語できたらなんかええかも!』と目覚めました」。その後3回生の夏休みにカナダへ、4回生で半年間イギリスへと留学し、卒業後は文具系商社の貿易部の秘書として就職しました。しかし、仕事にやりがいを感じられず、働きながら留学準備を進め、カンザス大学大学院教育学研究科で英語教育学を学ぶことを決めます。

いざ留学してみると、悪戦苦闘する日々が始まりました。「クイズをやると言われ、なぜぞだと思っていたら小テストのことで、私以外みんな勉強していたということもありました」。教授を待ち伏せて質問攻めにしたり、教科書をすべて覚えたりと努力を続けたといいます。「留学した当初、英語では思っていることの10分の1も言えず、自分が幼稚になったような気がしました。英語を勉強し始めた人の歯がゆさ、表現できないもどかしさはよくわかります」。こうした経験も、英語を教えるということへの熱い思いにつながっています。

帰国後、私立中高一貫校での非常勤講師を

経て、摂南大学で教鞭をとっていたある日、大阪教育大学の教員公募情報を見つけて。「自分と同じ英語教育学を志す学生の集まる教員養成系大学に対する憧れのようなものを感じ応募しました。無事に採用され、自分の研究を学生が引き継いでくれる、一緒にやってくれるという環境に恵まれて、本学に来て本当に良かった」。大学院生の海外での発表を奨励するなど、今は自分の業績より、後継者の育成に注力しています。

2012年には附属高等学校長に就任しました。「トラブルが発生した時に、校長としてどう振舞うのか、娘を持つ親として何が言えるのかを考える日々でした」と、大学教員とは違った仕事に戸惑いもありました。在任中に印象に残っているのは、附属池田中学校及び附属高等学校池田校舎で国際的な教育プログラム「国際バカロレア」の導入に着手したことです。「特に高校生向けプログラムは、所定のカリキュラムを履修し、最終試験で一定の成績を収めることで、国際的に認められる大学入学資格が取得でき、海外の大学への進学が容易になります。また東京大学や京都大学でも国際バカロレア資格取得者枠を設けた入試が行われているなど、導入する意義は大きい」と力をこめます。

今年度から附属図書館長に任命され、これ

からの図書館の在り方を模索しています。「今はインターネットのおかげで、自宅にいなが様々な情報を得たり、デジタル教材にアクセスしたりでき、図書館に足を運ぶ機会は減っています。そうしたなかで、今後の図書館にどのような役割が期待されているのか。ちゃんと知識をもって、新しい情報にはいつもアンテナをはっておかなければいけない」と語ります。今の目標は、図書館のグローバル化を進めること。「今後は図書館に關係する教職員を伴っての海外視察も検討しています。図書館にもグローバル化は絶対必要」と意気込みます。

学生には、問題解決能力を養ってほしいと望みます。「何か問題が起こった時には、客観的な視点に立って分析し対処しなければなりません。そのためには日頃から、仲間の輪を広げ柔軟な考えができるようにしておくことが大切です。大きな課題や障害を乗り越えた分だけ、人から信頼され達成感を得られる。そういう経験を積んでほしい」と強調します。

趣味は山小屋でのんびりすることと、民族楽器バンジョーを演奏すること。「バンジョーは『大きな古時計』とかを、アルペジオみたくに弾くとなかなか楽しい」。趣味も国際色豊かでした。

VISIT THE LAB



インタビュー動画が見られます。 大教大 NAVI 天

志を高くもち、自分のスタイルを貫いて

「やる前から『私なんて』と言わず、目標を高くもって世界に飛び出して。大教大の学生は、実力はあるのにめざしているものが小さくて、もったいない」。本学教員となって2年目、学生にはもっと積極性を持ってほしいと感じています。そんな岡本麻子准教授自身のエピソードからは、高い志とそれを支える強い意志が垣間見えます。

先にピアノを始めていた2人の姉の影響から、3歳でピアノを始めました。「子供のころは、ピアニストになりたいというよりは、ピアノ教室の大会に選ばれて嬉しいというような、目の前のことで楽しくやっている感じでした」。転機は、小学校5年生の時に参加した著名なピアニストによる公開レッスンでした。「衝撃を受けました。その先生と出会ってから

ぐんと上達し、ピアノがさらに楽しくなりました」と、どんどんピアノにのめりこんでいきました。

高校で地元大阪を離れ単身上京し、桐朋女子高等学校音楽部ピアノ科に進学します。東京では一人暮らしで、「7畳1間に小さいグランドピアノを入れ、その下にパイプヘッドを置いて寝ていました」。ホームシックになりながらも、朝6時から練習室へ行き、自主練習をしてから授業に行くなど、ピアノ漬けの日々がはじまります。「周囲から、私の音楽は早く外国に行った方が合っているとずっと言われていて、高校に入学した時にはすでに、卒業したら海外へ行くんだという心づもりでした」

高校3年生の時にドイツ・フライブルグ大学の教授に演奏を聞いてもらい、同大学へ留学することが

決まります。「ドイツではピアノ科の学生でも、合唱曲や弦楽器の曲など、いろんな分野の曲を知っています。どっぷり音楽に浸かっていて、文化が違うと目が覚める思いでした」。ピアノ以外で印象に残っていることを聞くと、「ダンス」と意外な答え。「同じアパートにブラジル育ちの日本人の子がいて、家に遊びに行くといつもラテン音楽を流して踊っていました。サンバがすごく上手であこがれて、基礎から教えてもらいました。腰ではなく膝を使うんですよ。夢中になって1人で鏡の前で練習したと、ドイツでの学生生活を懐かしみます」。

帰国後、大学の非常勤講師などを経て、本学に着任。所属する教養学科芸術専攻音楽コースは、教員同士の仲がとても良いといえます。「専攻を盛り上げていこうという教員の団結力がすごい。トランペットの神代修准教授が率いるウインドオーケストラ、毎年のサマーコンサート、秋の定期演奏会など学生オーケストラの活動が盛んだったり、教員個人の活動についても認めて応援してくれたり、教えることも、自分のことも、集中できる環境があって幸せ」と笑顔を見せます。

目下の課題は、自身の演奏活動と大学での指導者としての仕事を両立すること。自分の練習時間をどう捻出するかを常に考え、コンサート本番前には学食で夕食をとって練習し、帰宅時間が0時近くになることもあります。それでも、「演奏活動を全部やめてしまえたらどれだけ楽だろうかと思うこともあるけれど、やっぱりピアノを弾いていると自分らしいと感じるし、音楽を楽しめる瞬間でもあるのです」と、演奏者としてピアノを弾き続けることへの思いを語ります。

今後の抱負を聞くと、力強くこう答えました。「以前出場したコンクールの指揮者に、『自分が一番魅力的に伝わる作曲家だけを弾けばいい』と言われていたことがあります。確かに世界的なピアニストの中には、特定の作曲家だけ演奏するというような方もいますが、わたしはまだ若いので幅広く勉強しつつ、将来的に自分のスタイルを持って突き進んで行けるようになりたい」。小柄な身体には、途切れぬ向上心とパワーが満ち溢れています。

教養学科芸術講座(音楽) 岡本 麻子 准教授 OKAMOTO MAKO



Students Now!

スチューデント ナウ

大教大 NAVI 天

インタビュー動画が見られます。



強みを活かして、新しい価値観に出会う

大学院特別支援教育専攻 2回生 ^{もりの たくま} 森野 宅麻さん (兵庫県立神戸高等学校卒)

森野宅麻さんは、障がい学生修学支援ルームの支援協力学生として活躍しています。

もともと特別支援教育に関心があったわけではありませんでした。教師になろうと思ったのも「中学高校とずっと吹奏楽部で、吹奏楽部の顧問になりたくて」。本学学校教員養成課程理科教育専攻に進学し、特にICTを活かした理科教育を研究テーマに選びます。「理科を選んだのは、自分が苦手だったから。苦手だからこそ、どこで子どもたちがつまづくのかわかるし、努力して克服した経験が活かせる」。どんなこともやればできると子どもたちに伝えたいの思いからでした。

そんな森野さんと支援ルームとの出会いは、学部3回生の時でした。「中学の先輩が特別支援教育専攻にいて、その人の紹介で支援協力学生になりました。最初は、得意なパソコンを使って空コマでお金がもらえるアルバイト感覚だった」と苦笑します。しかし実際に活動を始めると、気持ちが変わります。「支援ルームで初めて障がいのある方と出会いました。頑張っている人が、僕らと同じようなことができないのは嫌だなと感じるようになりました」。パソコンでのノートテイク、iPadなど支援に使う機器の維持管理など、得意

分野を活かして積極的に参画するようになります。こうして、支援ルームに頻りに顔を出すようになりました。

大学院特別教育支援専攻に進学した現在も支援ルームでの活動を続け、気づけば4年目。後輩の相談に乗るなど今ではルームのお兄さんの存在です。時にはルームのことを熱く語ることもあるのだとか。最近では活動に携わる学生がだんだん増え、初心者向けの研修を定期的に行っています。今後はそれだけでなく、既に支援を行っている人のレベルアップをめざす機会を作り、一人ひとりのスキルをもっと向上させていくことも必要だと感じています。

森野さん自身も、スキルアップに余念がありません。本学が新たに導入した制度を利用して、聴覚障がいのある方のために、話の内容を要約しつつ、その場で文字にして伝える筆記通訳である「要約筆記者」の資格を取得しました。学外でも、大阪市でICTアドバイザーとして、週1回程度学校を訪問し、特別支援学級の先生などにiPadやPCの教育における活用方法を共に考える活動を行っています。「学内外で色々な活動をする中で、インクルーシブ教育を行う環境にどう対応する

か、ICTを使ってどう子供に教えるかを学んできました。将来教員になった時、この経験が生きてくると思います」

卒業後は、中学校の理科教員になりたいと考えています。「通常学級で、支援ニーズのある子どもたちにどう対応するか、何ができるのかを模索していきたい。もちろんICTを活用した教育も実践していきたいし、吹奏楽部の顧問にもなりたいです」と意気込みます。

後輩へのアドバイスを聞くと、「何か一つ強みを持つこと」と言います。「僕の場合はICTでした。支援ルームや大阪市でのアドバイザー活動なども、ICTという強みがあったからできた。理科教育をやっているだけではわからなかったことがたくさんあって、得意分野があれば、活動の幅が広がり、新しい価値観に出会うことができます」と、力強く語ります。近い将来、理科・特別支援教育・ICT・吹奏楽とたくさんの「得意」を活かして、学校現場で活躍している森野さんの姿が目につくようです。

大学生しかできないことを、やり尽くす

学校教育教員養成課程技術教育専攻 1回生 ^{きつかわ よしひさ} 吉川 喜久さん (奈良県郡山高等学校卒)

高校生までも水泳一筋でやってきた吉川喜久さん。大学でも水泳を続けようか迷っていた時、先輩から言われた「大学生しかできないことをやった方がいい」という言葉にはとします。「これまで水泳がメインの生活で、学校行事に深く関わることができませんでした。『大学しかできないこと』を考えてふと浮かんだものの一つに、大学祭実行委員がありました。水泳を辞めるなら、水泳と同じくらい価値のあることをやりたいと考えるようになります。

そんな時、5月に行われた春季大学祭「五月祭」で、英語・芸術・国語など5つの専攻から集まった50人ほどのグループのまとめ役となります。各専攻の代表者と話し合いを重ね、出店したサムギョブサルの店は好評を得ました。「人前で話したり、まとめたりするのは得意。好きなことをやって感謝されるのはすばらしいことだと強く感じました。それに、ただ参加するだけでなくまとめ役をやったことで、他専攻の人ともより仲良くなれました」。この経験から、大学祭実行委員になろうという気持ちが固まります。

今は11月に実施する大学祭「神霜祭」を盛り上げるべく奔走する毎日です。昨年は実行委員がたった3人しかおらず、縮小傾向にある大学祭を、自分

たちの代でなんとかしたいと手を尽くしています。少しでも資金を集めるため、3年ぶりに渉外を復活させ、夏休みを利用して大学周辺の企業やお店に電話や訪問を繰り返し、大学祭パンフレットに広告を出してもらうことができました。「他大学の学園祭委員との会議や交流会がある度、大教大は人数が圧倒的に少ない、お金も少ないと痛感します。でもまだまだできることは絶対ある」。どんどん新しい提案をし、できることは自分たちから動くことにしています。

その熱意の源は、「学校が大好き」というシンプルな思い。教師を志したのもずっと「学校」に関わっていたという気持ちからでした。物づくりが好きで、技術教育専攻を選びました。「工学部と教育学部の中間のような専攻で、グループワークが多く、チームに分かれてレゴブロックでロボットを作ったりもしました。講義の授業でも先生が問いかけると、皆で意見を出します。ただ聞いているだけではなく参加型の授業が多いです」。1回生9人という少人数ならではのアットホームな環境だと言います。

2回生になったら、遠隔地実習に行くことを目標にしています。遠隔地実習とは、山間部や離島などにある学校での実習です。「厳しい選考があるそう

なので、選ばれるためにいろいろな経験を積んでおきたい」と、学習塾でアルバイトをしたり、小学生対象の工作キャンプにボランティアとして参加したりと積極的に行動しています。そのほか、今後挑戦することとして、読書をあげます。「受験勉強はしてきたけれど、教養や一般知識は正直言ってあまりありません。文章を考えると、どういふ言い回しをした方がいいかわからないと思うことがあります。教壇に立ったら辞書はひけないので、今のうちに知識を増やしておきたい」

来年は大学祭実行委員の委員長になることが決まっています。「今1回生なので、これから3回神霜祭をやっていくこととなります。会議や意見交換をするたびに、改善点をメモして、次回に活かしていきたいことがたくさんあります」と、3年かけて、自分も大学祭もレベルアップすることを心に決めています。同時に、活動を通して他専攻や他大学の人と出会いも大事にしたいと目を輝かせます。「せっかく、同じ教員志望の人がたくさんいる大教大に入ったのだから、将来先生同士の繋がりにしていきたい」。あふれる情熱と行動力で、大学4年間を走り抜けます。

BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

普段はジャージが多いですが、私服の日にはオシャレにも気を遣っています!

夢を追い続ける三段跳び選手
おぎわら とおる
荻原 徹さん
教養学科
スポーツ専攻 2回生

ストレッチボール
練習前にウォーミングアップとして使用することが多いですね。背中や太もも裏にあて、ごろごろしてケアを行います。試合の時は必須アイテムです!

トランプ

学生の間では特等席といわれている1食(Dining TERRA)のソファで、空きコマにみんなで大富豪をして遊んでいます。

スポーツサングラス

日差し防止のために使用しています。自分で稼いだバイト代で購入。バイト代のほとんどは、陸上の道具を買うために使っています。

塩分補給タブレット

夏はいつでも塩分補給できるように持ち歩いています。太陽が近いからなのか!大教大はとても暑いですね…

練習ノート

練習ノートには、その日の改善点、反省点などを毎日書きます。図を使ったりして、わかりやすくなるように工夫しています。



- ①財布 ②時計 ③1人で練習する時に、グラウンドで音楽をかけるスピーカー ④モバイルバッテリー ⑤サングラスケース ⑥UV加工のスポーツサングラス ⑦タオル ⑧練習用ユニフォーム ⑨ヘアスプレー ⑩ハンドクリーム ⑪携帯 ⑫筆記用具 ⑬フェイスシート ⑭空きコマの暇つぶしアイテムのトランプ ⑮身体のケアで用いるストレッチボール ⑯ヘアワックス ⑰水筒 ⑱カバン ⑲毎日欠かさずにつけている練習ノート ⑳入学時にもらった大教大手帳 ㉑塩分補給タブレット ㉒スポーツの本と教科書 ㉓スパイクシューズ



オフショット動画が見られます。



夢に向かって、ホップ・ステップ・ジャンプ!

大教大名物の長いエスカレーターを登っていると、大きなリュックを背負って歩くスラッと背の高い男子学生を発見。彼は荻原徹さん。陸上競技部に所属している三段跳びの選手です。

カバンの中には、ヘアワックスにフェイスシートといったメンズ身だしなみグッズから、スポーツサングラスやシューズなど部活の必須アイテムまでぎっしり。今は陸上を一番に頑張っています。友達との会話も「今日は何メートル飛べた」とか陸上のことばかりと、陸上にどっぷり浸る日々を満喫しています。

将来は高校教員をめざしています。きっかけは高校時代、陸上部の顧問の先生と出会ったこと。生徒を指導しながら陸上競技を続け、県内で優勝するなど選手としても結果を残している姿に憧れました。「僕もずっと陸上を続けて、マスターズとかに出場したい。最近では、教員と陸上選手を両立させるための一歩として、毎日本を読むことを習慣にしています。大きなリュックに未来の種を詰め込んで、彼は今日も歩み続けます。

ゼミ室ごぼれ話

第2話

《自然研究講座植物分子遺伝学研究室》

植物の遺伝子やゲノムについて研究している鈴木剛先生の植物分子遺伝学研究室は、実験に使用するため、研究室のあちこちに植物があります。教材園でもたくさんの穀物や野菜を栽培していて、ゼミ生みんなで世話をしています。夏は暑くて大変だし、日々カラスから野菜たちを守るために戦っています。



たくさん収穫できると、実験では使い切れないことも。そんな時はみんなで簡単に調理して食べます。今日はカボチャとズッキーニの中間みみたいな野菜カボッキー・茄子・オクラ・トマト・唐辛子・ピーマンが入った夏野菜カレー。4回生5人の進路が無事決まったお祝いです。オクラが育ちすぎて筋っぽいけど、美味しくできたと思います。カレー以外にも、麻婆茄子、焼きズッキーニ、ゴーヤチャンプルー、スパゲティ用のトマトソースなど、その時に採れた野菜で臨機応変に手のあいた人が仕込みます。こんな風に週1回程度、わいわいみんなでご飯を食べる仲の良い研究室です。

突然ふらっと隣の研究室の向井康比己副学長がやってきて、トマトたっぷりのカレーを振舞っていくこともあります。近い将来、大教大副学長カレーとして売り出してはどうでしょうか。

(三原 淳希さん 学部4回生)

附属平高生が 高校生平和大使として国連でPR

附属高等学校平野校舎の森田花菜(もりた かな)さんが、高校生平和大使・外務省ユース非核特使として、スイス・ジュネーブにある国連欧州本部などを訪問しました。

森田さんから高校生平和大使22人は、8月14日から19日にかけて渡欧し、国連欧州本部や国連軍縮局、女性の社会参画をめざす国際NGO組織「世界YWCA」、赤十字社の創始者アンリ・デュナン博物館などを訪問しました。軍縮局では平和大使たちが英語でスピーチし、森田さんは「核兵器に無関心な人が多い。もっと多くの人に関心をもってほしい」と訴えました。その後、日本国内で集めた核兵器廃絶と世界平和をめざす署名12万5314筆を、同局ジュネーブ支局長代行マリー・ソリマン氏に手渡しました。ソリマン氏は、「現実的に核兵器は一夜では根絶できない。しかし、高校生が決意をもって行動することで世界は動く。変化をもたらすために、人々の意識を喚起することが必要だ」と一行を激励しました。

森田さんは、両親が青年海外協力隊として活動していたことから国際平和に関心を持っていました。「国籍や人種の区別なく、誰もが医療を受けられることをめざし、医師になりたい」と夢を抱いています。今年2月、紛争地域で医療・人道援助を行う国際NPO法人「国境なき医師団」がシリアで爆撃を受けたことに衝撃を受け、戦争のない平和な世界になってほしいと、平和大使に応募しました。

9月30日、栗林澄夫学長を表敬訪問した森田さんは、欧州での活動を報告し、「国連の会議では、冒頭に紹介されました。自分たちの存在が認められ、平和大使への期待を感じました」と感想を語りました。栗林学長は「平和大使としての活動は、今後の人生の大きな力になることでしょう。引き続き頑張ってください」と激励しました。



◀(キリトリ)▶

天遊 vol.39 アンケート

- 本号でよかった記事を下から選んでください。(3つまで。その他は具体的にお書きください。)
- 【 】【 】【 】
- (その他)
- ①トビタテ!留学JAPAN ②博士が導くスーパーサイエンス
- ③手をつないで ④新任役員紹介 ⑤ラボ訪問
- ⑥STUDENTS NOW! ⑦BAGの中身 ⑧附属学校園ウォッチ
- ⑨ゼミ室ごぼれ話 ⑩TOPICS

- 取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。()
- 本誌をどこで手にされましたか。()
- 本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

● 次号以降、毎月「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください 次号以降、毎月「天遊」を送付希望します。
 今後「天遊」の送付を停止します。

ご住所 〒
お名前
お電話番号

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

01 学長記者会見で学部改組を発表



学長記者会見を9月2日(金)に天王寺キャンパスで開催し、栗林澄夫学長が8月24日(水)に文部科学省に認められた教育学部の組織改革について発表しました。現在の教員養成課程を「初等教育教員養成課程」「学校教育教員養成課程」「養護教諭養成課程」の3課程に再編し、教養学科を「教育協働学科」にリニューアルします。

教員養成課程は、「これからの学校現場で必要とされる教員を育てる」という考えのもと、小中・中高の接続を意識した「小中教育専攻」や「中等教育専攻」といった学校種別の専攻に変更します。現在の積み上げ型教育実践システムに加え、多彩な学校インターンシッププログラムによって教員としての実践力を高めます。カリキュラムにおいても、アクティブラーニング、ICT教育などを意識し改編します。新設する教育協働学科は、「学校・家庭・地域・社会と連携・協働し、教育課題の解決を図る、社会に貢献する人を育てる」をコンセプトに、総合的教養に加え、教育への理解と高い専門能力を身に付け、教育的視点から地域社会と連携し、多様化する教育課題の解決を図る人材を養成します。栗林学長は、「今回の組織改革は、貧困やグローバル化といった児童・生徒の多様化、若手教員の育成、小学校での英語の教科化、学校種間の接続対応など、多忙を極める教員と学校現場が抱える課題に応えるための改革です」とした上で、「教員と専門スタッフがお互いに力を合わせ、学校を中心に『協働』することで、教育大学として社会に貢献したいと考えています」と抱負を述べました。

02 セレッソ大阪とフレンドシップ協定締結

大阪教育大学は、大阪・堺両市をホームタウンとするプロサッカークラブ「セレッソ大阪」とのフレンドシップ協定を締結しました。10月2日(日)、ヤンマースタジアム長居で行われた調印式と記者会見には、セレッソ大阪の運営会社である大阪サッカークラブ株式会社の玉田稔代表取締役社長、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブの宮本功代表理事、本学から栗林澄夫学長、入口豊理事・副学長、松岡正和理事・副学長が出席しました。栗林学長、玉田社長、宮本代表理事が協定書にサインし、本学とセレッソ大阪のペナントを交換。セレッソ大阪のチームキャラクター「ロビー」と「ロビーナ」も駆けつけ、笑顔で記念撮影しました。会見で玉田社長は「大教大の教育に関する高い知見を活かし、優れた指導者を育成できる」と期待を寄せました。栗林学長は「互いにブランド力を高めると



もに、教育大学として、地域社会やサッカー文化の熟成に貢献していきたい」と意気込みを述べました。本学では、セレッソ大阪応援の横断幕掲示、積極的な試合観戦など、全学を挙げてセレッソ大阪を応援します。また、選手や指導者向けの教育セミナー、ホームゲームでの学生ボランティア、学生のインターンシップ(就業体験活動)などの連携事業を計画しています。同日開催のセレッソ大阪対清水エスパルス戦は、大阪教育大学応援デーとして、学生、教職員、附属学校の児童・生徒ら約1500人が観戦し、熱い声援を送りました。

(キリトリ) ✂

料金を受取る郵便

郵便はがき

5 8 2 - 8 7 0 5

柏原局 承認 327

差出有効期間 平成29年 8月31日まで

切手不要

(受取人) 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 大阪教育大学広報室 行



✂ (キリトリ)

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

① 本学学生	② 本学卒業生	③ 本学保護者
④ 本学教職員	⑤ 附属学校生	⑥ 附属学校保護者
⑦ 附属学校卒業生	⑧ 附属学校教職員	⑨ 名誉教授
⑩ 教育委員会関係者	⑪ 他大学教職員	⑫ 他大学学生
⑬ その他()		

公式 facebook ページを開設しています
<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>

公式 Instagram ページを開設しています
<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv/>

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非フォローしてください。

公式 アプリケーション
 Android・iOS
 スマートフォン対応アプリ

天遊の動画も見れる

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!
 (詳しい使い方はホームページをご参照ください)

大教大 NAVI
 大阪教育大学入試ナビゲーター

App Store・Google Playから検索。

Available on the iPhone App Store

ANDROID APP ON Google play

大教大

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。この印刷物は、14,000部を714,000円で、すなわち1部51円で作成しました。